

I 研修スケジュール

小児科は下記の週間スケジュール表を基本として研修する。

曜日	午前	午後
月	一般外来業務	慢性疾患外来業務 (腎疾患、内分泌疾患など)
火	病棟業務	乳幼児検診 慢性疾患外来業務(循環器疾患)
水	病棟業務	慢性疾患外来業務 (神経疾患、血液疾患など)
木	病棟業務	慢性疾患外来業務 (アレルギー疾患、予防接種、遺伝相談)
金	病棟業務	1週間のまとめ レポート作成

- ・当科の外来業務および病棟業務に指導医と伴に従事する。
- ・大町市の乳幼児健康診断、予防接種にも指導医と伴に参加する。
- ・長野県立こども病院での専門性の高い研修も可能である。
- ・一般外来にて、喘息患児、けいれん性疾患を経験する。
- ・新生児診察を病棟業務の中で行なう。
- ・大町市保健センターでの乳幼児検診および予防接種を指導医と伴に行なう。

II 目標 小児科診療に必要な基礎知識・技能・態度の修得

1) こどもの特性を学ぶ

栄養法、身体発育、神経発達を学ぶ

身体的状態だけでなく、心理的状态を考慮した診療態度を身につける

養育者の心配・育児不安などを受け止める

2) 小児科診療の特性を学ぶ

養育者からの情報とこどもの観察から病態を推察する、『初期印象診断』を経験する
こどもの年齢と状態に応じた臨機応変な診察を行う

診察に際してこどもの協力を得るためのスキルを身につける

小児の薬用量、検査値などは成長とともに変化することを理解する

小児科専門医の指導のもとに、予防接種、採血、血管確保の技術を修得する

プライマリ・ケア、乳幼児健康診査、新生児医療、小児救急医療などを体験する

3) 小児疾患の特性を学ぶ

同じ主訴・症候でも年齢により鑑別疾患が異なることを理解して診療にあたる

頻度の高い疾患(感染症、けいれん、喘息など)については、診断して初期の治療方針が立てられるようにする

こども特有の疾患や先天異常などを経験する

一般的な症候の中から重症疾患を見逃さずに診療し、適切にトリアージする

専門的な診療が必要な症例について、適切なコンサルテーションができる

4) 実際の業務

小児科専門医の指導のもと、外来や入院患者の病歴聴取、身体診察、必要な検査を行い、専門医と協議の上方針を決定し診療を行う

必要に応じて患者説明、患者教育を行う

5) 経験することが望ましい症候と疾患

症候；発熱、咽頭痛、耳痛、咳、喘鳴、リンパ節腫脹、哺乳力低下、脱水
腹痛、嘔吐、下痢、便秘、血便、発疹、湿疹、黄疸、心雑音、貧血

出血傾向、紫斑、けいれん、意識障害、頭痛、夜尿、頻尿、体重増加不良
 肥満、痩せ、発達の遅れなど
 疾患；急性咽頭炎、溶連菌感染症、アデノウイルス感染症
 気管支炎、肺炎、クループ症候群
 ウイルス性疾患；突発性発疹、流行性耳下腺炎、水痘、伝染性紅斑、手足口病
 ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症
 ウイルス性胃腸炎、細菌性腸炎
 気管支喘息、アトピー性皮膚炎、じんましん、食物アレルギー
 熱性けいれん、てんかん、精神運動発達遅滞、発達障害
 尿路感染症、先天性心疾患、川崎病、貧血、低身長、肥満、 新生児黄疸
 アナフィラキシー、腸重積、虫垂炎、異物誤飲など

III 指導医

氏名	卒業年	専門領域	認定医・指導医等
竹内 さつき	平成2年	一般小児	日本小児科学会専門医 日本小児内分泌学会 日本小児脂質研究会
金井 絢子			